

生連協だより

vol.102

発行 千180-8629 東京都武蔵野市境5-8 会長校：亜細亜大学 TEL：0422-36-3264（代表）

編集担当 国際武道大学・杏林大学・神奈川大学

印刷 株式会社 エムディーエス

関東地区学生生活連絡協議会新会長あいさつ ～ポストコロナ期における新たな学生支援の在り方とは～

亜細亜大学 学生部長
成田 剛

亜 亜細亜大学で学生部長を務めております成田剛と申します。

今年度、関東地区学生生活連絡協議会の会長校を務めさせていただくこととなりました。就任にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

関東地区学生生活連絡協議会(以下「生連協」という。)は、私立大学36校と1団体(現独立行政法人日本学生支援機構、当時(財)学徒援護会)がアルバイト問題等を討議するため、1965(昭和40)年に「東京地区学生アルバイト対策協議会」として発足し、一貫して学生支援の向上のため、会員校間の情報共有や研鑽を重ね、各校の学生支援に大きな成果をもたらしてきました。

現在、会員校数77大学が加盟し、「会員校間との連絡協議を通じて、学生個人々の素質や個性に即し、より豊かな学生生活を送ることができるよう支援すること」を目的として各種事業を展開しています。

今日まで、社会環境の変化に柔軟に対応しながら、歴史を創ってこられた会員校の諸先輩のご尽力に敬意を表しますとともに、今年度会長校として、会員校のさらなる学生支援向上に貢献していく責任の重さを感じております。

会員校各位のご指導、ご協力を賜りながら、亜細亜大学学生センター一同、精一杯進めてまいります。

さて、新型コロナウイルス感染症は、社会全体に広範かつ多面的に影響を与えています。大学教育の現場においても、感染対策の徹底や、授業におけるICT活用の加速化等、コロナ禍によって喫緊に対応すべき取り組みが行われているものの、従来の考え方や価値観では、解決できない課題も多く残されています。

また、学生のキャンパスにおける対面活動が制限され、現1・2年生は、教員や同級生との十分な交流機会が得られないまま、孤独・孤立に悩んでいる学生も少なくありません。

政府は、「教育再生実行会議(第十二次提言)」において、ポストコロナを見据えた高等教育の在り方を考えるに当たって、「大学等は、単に知識・技能を修得するための場ではなく、正課外活動も含めた学生生活全般において、教職員・学生間、留学生や社会人も含めた学生間における多様な協働・交流を通じた社会性や対人関係能力の涵養等が行われることに価値があるという点です。このような全人格的な教育の場としての大学等の学び、経験の全てが遠隔・オンライン教育に代替されるものではないことに留意する必要があります。」と提言しています。

私共、学生支援に携わるものとして、学生主体の視点を今まで以上に重視し、具体的には、以下のような『主体的「学び」の継続』を支える取り組みを実践する必要があります。

- ①学生に対する経済的な支援方策の拡充
- ②経済的支援に関する相談体制の整備
- ③学生の修学状況等の把握ときめ細かい対応
- ④孤立感、孤独感を緩和するメンタルヘルスケア
- ⑤多様化する採用試験に対応する就職活動支援 等

これらのことを踏まえ、令和3年度「生連協」は、新型コロナウイルス感染症の未だ収束の兆しが見えない中、オンラインを中心に、留学生担当者研修会をはじめ、学生支援のエキスパートの方々からご講演いただき、テーマについて学ぶ研修会等、会員大学相互の連携と情報共有を深める活動を実践いたします。

最後に、VUCAと呼ばれる予測困難な時代だからこそ、「逆境こそ進歩のチャンス」と捉え、ポストコロナ期における新たな学生支援の在り方について、「生連協」会員大学相互の取り組みを共有しつつ、学生が生き生きと輝く支援の実現に向け、微力ながら力を尽くしてまいります。皆様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

第 56 回

通常総会開催

2021. 6. 4 fri

令和3年度 三役校決定! >>> 会長校 亜細亜大学 副会長校 国土館大学・東京都市大学

令和3年度 第56回通常総会は昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への感染防止の観点から会員校皆様の健康と安全を最優先に考え、事前に総会資料を送付し、議案を確認いただいた上で運営を三役校に一任いただき、書面議決書方式といたしました。

書面議決書は、総会開催日の6月4日(金)までに67校から提出があり、全議案について反対意見はなく、議事は滞りなく進行し、無事終了いたしました。

なお、総会は、当初予定されていた亜細亜大学キャンパスから感染防止のため、オンライン会議に切り替えての開催といたしました。

1. 令和3(2021)年度 第56回 通常総会について

■書面議決書 集計結果

議案	結果	賛成	反対	無効
第1号議案 令和2年度事業報告について	認	67票	0票	0票
第2号議案 令和2年度決算報告について ※会計監査報告	認	67票	0票	0票
第3号議案 令和3年度役員校並びに顧問の選出(案)について	認	67票	0票	0票
第4号議案 令和3年度事業計画(案)について	認	67票	0票	0票
第5号議案 令和3年度予算(案)について	認	67票	0票	0票

会員校数 77校(議決権総数)

総会成立数* 52校

書面議決書提出数 67校(出席会員数)

2. 令和3(2021)年度 関東地区学生生活連絡協議会 三役会について

開催日時:令和3(2021)年6月4日(金) 16時00分～17時00分

開催場所:新型コロナウイルス感染症(COVID-19)予防対策のため、亜細亜大学キャンパスからZoomを使用しているオンライン開催に変更

出席者:会長校(東京都市大学) 住田 暁弘

河合 大

松永 俊幸

副会長校(二松学舎大学) 山田 教寛

副会長校・次期会長校(亜細亜大学) 成田 剛

川口 学

和田 かおり

次期副会長校(国土館大学) 岡田 元子

苫米地 示路

橋田 慎太郎

石井 康太

■三役会 主な議題

次期会長校・亜細亜大学 学生部学生センター課長 川口 学氏の進行により三役会が開会された。

まず「第56回 通常総会」の書面議決書提出状況並びに集計結果について報告があり、規約第12条第7項の規定に従い会員校77校の3分の2以上の出席(書面議決書提出)が67校あることが確認され、総会成立の報告があった。

それにより、令和3年度スタート宣言がされ、令和3年度 新会長校・亜細亜大学 学生部長 成田 剛氏より会長就任の挨拶があった。

次回三役会、常任委員会の日程を告知等の後閉会された。

※関東地区学生生活連絡協議会規約第12条 第7項抜粋

総会は、会員校の3分の2以上の出席(委任状を含む)をもって成立し、その議決は、出席校の過半数をもって決する。ただし、議決権は1校1票とし、可否同数のときは議長が決するところによる。

2021年度の新たな取り組み紹介

杏林大学

学生食堂の掲示や巡回、職域接種の対応に取り組みました！

本学では新型コロナウイルス感染症の予防として学生食堂の掲示等に力を入れて取り組みました。食堂内の至る所に「黙食(もくしょく)」と掲示し、混み合う昼食時間中には職員が巡回して食事中にマスクを外して会話している学生を指導しました。さらに感染予防に各自取り組むよう連日、校内放送を実施し、学生へ感染症対策への意識付を強く呼びかけました。

職域接種の対応としては聴講生等を含む全学生へ接種希望の有無についてアンケート調査しましたが、集計が完了したところで行政より延期の通知があり、職員皆が、がっかりして肩を落としました。



国際武道大学

2年目の新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルス感染対策に迫られ、様々な制限が課される生活も1年半以上となり、教育現場の混乱も若干落ち着いてきたというか、慣れてきたという状況にあるかと感じております。但し、決して気持ちが緩んできたという訳ではなく、感染防止への意識が一般化してきたということです。

さて、体育系大学である本大学においては、授業・課外活動(特に運動部)双方において、コロナ禍に応じたスタイルが定着してきました。部活動におけるクラスター発生は勿論ですが、様々な

部活の学生が混在する授業でクラスターが発生すると多くの部活動に影響が及ぶことから、殊更、神経を使ってまいりました。

ワクチン接種が進む中、今後、脱感染防止対策、そして通常形態に戻ることが理想ではありますが、今現在定着しているスタイルしか知らない2年生・1年生においては、緩やかで段階的なりハビリ期間を要するものと考えております。

神奈川大学

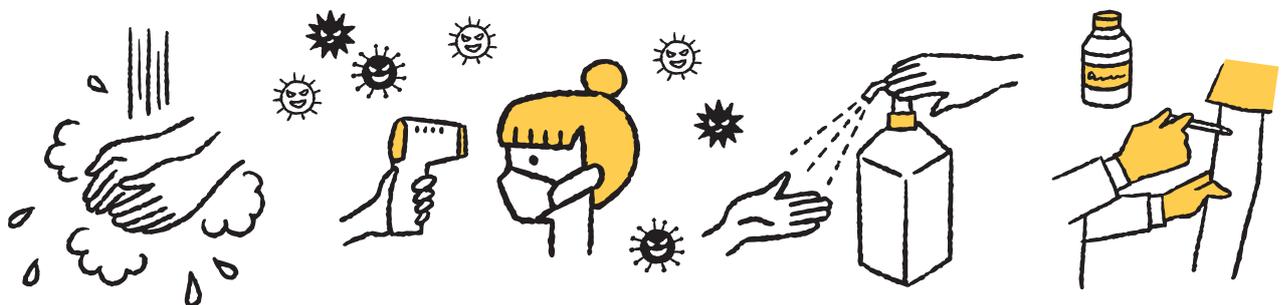
新型コロナウイルスへの対応

コロナ禍において、全国の大学生が“普通の大学生活”を送れず、抑制された生活を強いられています。“なぜ大学生だけが行動抑制を…”とか、“人生の中でも一番楽しい・大切な時に…”と、思い悩む学生も多いかと思えます。

本学も他大学様同様に6月に関係省庁に職域接種の申請を行いましたが、政府のワクチン供給の混乱から2度のスケジュール見直しを余儀なくされました(7月末日時点)。しょうがないことと

理解するものの、“普通の大学生活”を送れていない学生のことを思うと、心が痛み、やるせなさを感じます。

在学生在居ない(少ない)キャンパスは、本当に寂しいものです……。当たり前だった生活が、当たり前ではなくなりました。今、ワクチン接種が進み、全国の大学生が一日でも早く“普通の大学生活”を取り戻せたらと祈るばかりです。



令和2年度関東地区学生生活連絡協議会の 会長校を終えて

～アフターコロナの多様な学生支援のために～



東京都大学 学生部長
飯島 正徳

2020年度関東地区学生生活連絡協議会会長を務めさせていただきました東京都大学の飯島です。東京都大学は、昨年度、二松学舎大学様から会長校を引き継ぎ、今春、亜細亜大学様にバトンタッチさせていただきました。今年度は終始コロナウイルスに翻弄された1年であり、中止になった活動も多く、必要最低限の活動になってしまいました。このような状況にもかかわらず、会員校、そして会員の皆様のご理解とご協力を賜り、何とか大役を務めることができました。本学学生支援センター一同、心より御礼申し上げます。

会長校としては、未来へつなぐ意味で今後の多様な学生支援を目指して多少なりとも貢献できるように進めて参りました。通常総会やワーキンググループの活動は、この1年間ですっかり定着したZoomを利用して行いました。通算124回講演会では、本学の高橋国法教授に「退学者削減は可能か～東京都大学の取り組み～」というタイトルでご講演いただきました。各大学でも関心の高い内容であることから、29大学61名という比較的多くの方にご参加いただきました。会長就任時の挨拶では、「コロナ禍の今こそ会員校間および会員間の連携や情報交換といったものが重要

である。」と申し上げました。しかし講演会後に行われる懇親会が止むを得ず中止となり、期待していた連携や情報交換が十分には機能せず、また盛り上がり欠けるところでもありました。

今年は、1年延期されましたがオリンピック・パラリンピックイヤーであり、本来であれば色とりどりのウェアに身を包んだにわかアスリートが街にあふれ華やかさを演出しているはずでした。各大学でも、スポーツ系の課外活動は例年以上に注目され活気あふれるはずだったに違いありません。しかし現実には昨年から続く「自粛」ムードの中、マスクはほぼ毎日コロナウイルス感染予防対策を伝えています。こういう時こそ見方を変えれば、時間の有意義な使い方について考えるよい機会になります。17世紀に英国ロンドンでペストが流行した際には、名門ケンブリッジ大学に通っていたアイザック・ニュートンは、やむなく故郷のウールズソープに戻ったそうです。そしてその1年半の休暇中の思索が、「万有引力の法則」「微分・積分」「光学」という三大業績を生み出しました。「創造的休暇」と呼ばれているものです。引き続きコロナ禍で、もし短時間でも暇や余裕が生じるのであれば、「創造的休暇」とは言わないまでも、願わくは時間の有効活用ができれば、必ずや今後のプラスになります。

最後に、就任挨拶で申し上げた「コロナの後に来るだろう新しい時代の学生支援」について、その姿は見たであろうか？ オンラインは手段であり、さらにプラスアルファが求められることになるでしょう。いわゆるアフターコロナの学生支援の一部と言えるかもしれません。この一年の皆様のご経験が新しい時代の多様な学生支援の礎となりますことを願い、会長退任の挨拶とさせていただきます。今後ともよろしく願い申し上げます。

令和3年度留学生担当者研修会をオンラインにて開催

留学生担当者研修会とは…

千葉県私立大学学生支援研究協議会と神奈川県学生生活協議会とのコラボレーションによる、取次申請者資格取得研修を含む研修会です。学生支援系部署だけではなく国際・留学関係部署からも参加者がいます。

研修会では、東京出入国在留管理局から講師をお招きし、取次申請に関する事項および最近の留学生の入国・在留状況等について情報を提供していただきます。

日 時 2021年10月8日(金)13:00～15:35(予定)

公演方法 オンライン形式

申込〆切 9月24日(金)

詳細につきましては、9月頃郵送いたします資料をご確認の上、お申込手続を行ってください。

※申請取次者証明書交付
対象研修会となります。



生連協【関東地区学生生活連絡協議会】ホームページのご案内

<https://www.seirenkyo.com/>

- ・年間行事、活動報告他掲載中！
- ・会員校同士の情報交換の場としてぜひ活用ください。

